

# 離床CALL システム

Operation manual

Model : ICS-102t



— 目 次 —

1	はじめに.....	3
2	警告・注意事項.....	3
3	装置概要.....	4
3.1	基本概要.....	4
3.2	特徴.....	4
4	各部の名称と機能.....	5
4.1	表示灯.....	5
4.2	スイッチ.....	5
4.3	接続部.....	6
4.4	ディップスイッチの設定.....	6
5	接続方法.....	7
6	異常内容について.....	8
6.1	警告灯が点灯する異常.....	8
6.2	警告灯が点灯しない異常.....	8
7	一般仕様.....	9

## 1 はじめに

このドキュメントは、離床 CALL システムについて、取り扱い方を説明したものです。装置を使用する上で必ず知っておいて頂きたい事柄を説明しておりますので、お使いになる前によくお読み下さい。

## 2 警告・注意事項

- 保守・点検の際は装置への電源供給を遮断し、既存のナースコールシステムから完全に切り離して下さい。機器の予期せぬ動作により誤通報、及び感電による重傷を負う危険性があります。
- 安全を確保するために、本機の分解や改造は絶対に行わないで下さい。分解や改造を行った場合、一切の保証を致しません。
- 設置にあたっては、次のような場所は避けて下さい。
  - ・ 直射日光があたる場所や、周囲温度が 0～40℃の範囲を超える場所
  - ・ 温度変化が急激で結露する場所
  - ・ 本体に直接振動や衝撃が伝わる場所
  - ・ 高周波発生器などの電氣的ノイズを発生する装置の周辺
- 本装置は警報伝達補助装置として開発されており、本装置に起因する事故等については一切の責任を負いかねますので、十分注意してご使用下さい。又、本来の目的以外でのご使用はおやめ下さい。
- センサーマットを畳んで収納する場合、上から重量のあるもの等でセンサーマットに負担をかけないで下さい。内部回路が損傷し、故障する場合があります。
- センサーマットの本体接続プラグ部が広がり、接続確認できないことがあります。この場合、広がった部分を人手により少し縮め、接触する様にして下さい。
- 本装置を使用する場合は設置時に必ず動作確認を行い、継続使用する場合は1日1回程度の点検を行う様、作業手順書等に明記して下さい。
- 少しでも異常を感じたら直ちに使用を中止し、点検、修理する様にして下さい。修理の際は当社営業担当者までご相談下さい。

## 3 装置概要

### 3.1 基本概要

本装置は介護、及び医療現場において、ベッド等からの離床を検知し、既存設備であるコールシステム等を使用して自動通報するシステムです。既存のシステムに追加する拡張タイプの為、今まで使用していたコールボタンも併用可能です。これにより、施設内における事故を未然に防止することが可能となります。

### 3.2 特徴

- 既存の設備に改造等、一切の手を加えることなく設置可能です。
- 既存システムへの接続が容易です。離床マット(以下、センサーマット)からのケーブルを本装置へ接続し、出力ケーブルをコールコネクタへ接続します。本装置に電源を投入して完了です。
- 接続ミスやケーブルの断線、電源プラグの抜けや停電等、システム異常時にも警報を出力します。これにより、人為的なミスも未然に防止することが可能です。
- 各社コールシステムに対応可能です。ケアコム、アイホン、松下電工等のメーカーにもコネクタケーブルで対応可能です。  
(一部対応不可能な場合もあります。対応可能の可否を調査させて頂く場合があります。)

## 4 各部の名称と機能

### 4.1 表示灯

- 電源

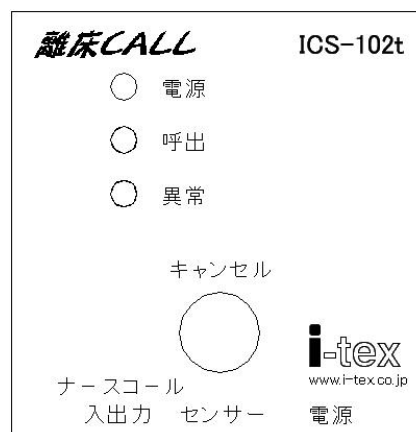
電源投入時、ランプが点滅し、監視状態になると点灯します。

- 呼出

センサーマットによる離床検出、または本装置の異常が発生した時等、実際にコールする時に点灯します。

- 異常

電源投入時、センサー入力ジャックに何も接続されていない場合、及びセンサーマット離床状態である時に点滅します。点滅中に入力(着床)が検出されると消灯します。また、監視時のセンサーマット離床検知、及び接続されているケーブル類の断線や電源の異常等、本装置に異常が発生した時に点灯します。また、キャンセルスイッチ押下後のセンサーマット入力無効状態時には点滅します。



【 本体正面 】

### 4.2 スイッチ

- キャンセル

【 電源投入時 】

センサーマットの着床確認後、電源ランプが点滅している時に押すと監視を開始します。

【 監視時 】

押すと約2分間、異常ランプが点滅し、センサーマットの感知、及び本装置の異常に対して通報しません。但し本装置の電源異常のみ通報されます。また、既存のコールボタンは通常通りの働きとなります。約2分後、自動的に復帰して監視状態に戻ります。復帰時に着床を検出できない場合、着床待機状態となり、異常ランプが点滅状態になります。その後、着床検出にて自動的に監視状態に入ります。

### 4.3 接続部

- ナースコール入出力

専用の分岐ケーブルを接続します。



- センサー

センサーマットを接続します。

- 電源

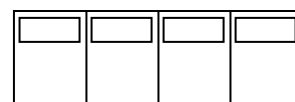
本装置の電源を供給する為の DC 電源プラグを接続します。

※ 分岐ケーブルは、分岐先にて入力と出力に分かれており、入力プラグには既存のコールボタンを、出力プラグには専用の出力ケーブルを接続します。出力ケーブルの先は、壁に埋め込まれている既存のコール用レセプタクルに接続します。

### 4.4 ディップスイッチの設定

本体上側面にあるディップスイッチにて、各モード設定を行うことができます。

- Bit1、2 = センサーマット検出デレイ設定値
- Bit3 = コールモード設定
- Bit4 = システム予約 (System reserved)



【 Topside View 】

～ Bit1・2の対応表 ～

Bit1 = OFF	: Bit2 = OFF	= 0 sec
Bit1 = ON	: Bit2 = OFF	= 1 sec
Bit1 = OFF	: Bit2 = ON	= 3 sec
Bit1 = ON	: Bit2 = ON	= 5 sec

～ Bit3・コールモード ～

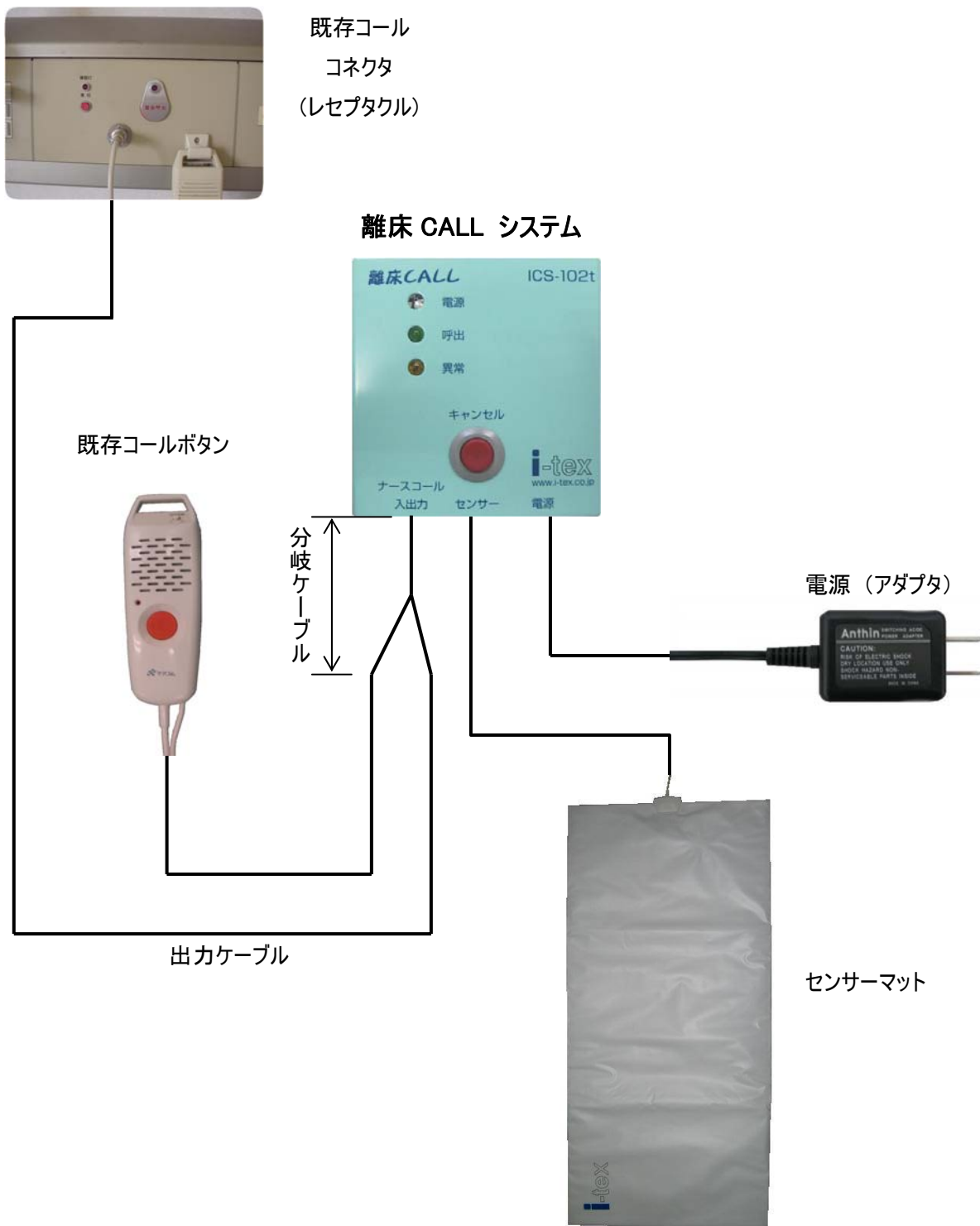
OFF	= 連続コール
ON	= 1sec コール

～ Bit4・予約 ～

システム予約です。常に OFF 状態でご使用下さい。

## 5 接続方法

以下は接続イメージ図です。



## 6 異常内容について

### 6.1 警告灯が点灯する異常

次の異常発生時には本体の異常ランプが点灯し、通報します。

- **センサーマット接続異常**

センサーマットの入力がない状態（断線等）

### 6.2 警告灯が点灯しない異常

以下の異常発生時には本体の異常、及び呼出ランプは点灯せず、通報します。

- **電源プラグ異常**

本装置への電源プラグが抜け、電源電圧が低下した状態

※ コールデレイ設定値に関係なく、即通報します。

- **コール端末接続異常**

既存のコールスイッチ等が接続されていない

※ 既存コールシステムの仕様により、コールしない場合もあります。

- **ケーブル接続異常**

本装置から既存コールシステムまでの間で出力、及び分岐ケーブルの接続が確認できない

※ 既存コールシステムの仕様により、コールしない場合もあります。

**※ 注意 ※**

センサーマット断線の場合、デレイ設定値が働いた後にコールしますのでご注意ください。

（即通報ではありません）

## 7 一般仕様

- 電源 : DC12V (AC アダプタにより AC100V から DC12V へ降圧、供給)
- 消費電力 : 10VA 以下
- 環境 : 使用周囲温度 0~40℃ 湿度 30~80%RH (結露なきこと)
- サイズ : 78 × 80 × 35 (W×D×H) 但し突起部は含まない
- 重量 : 150g (本体のみ)
- 入力 : 1chのみ (センサーマット専用)

－ 改訂履歴 －

改訂年月日	内容	改訂者
2005 年 10 月 31 日	初版	間野田
2005 年 12 月 3 日	一部訂正	間野田